

# みずしげん      かんきょうしげん 水資源から環境資源へ

年 組 番  
名前

霞ヶ浦は地域の発展とともに、水は急速によごれていきました。そして、昭和48年（1973年）にアオコが大発生するようになってから、水をきれいにしようという声が高まりました。人々にとっても、霞ヶ浦の水を利用することだけでなく、水をきれいにすることやまわりの環境を大切にすることが重要と考えるようになってきました。

① 水質の悪化とアオコの大発生、きれいにする取り組みへ

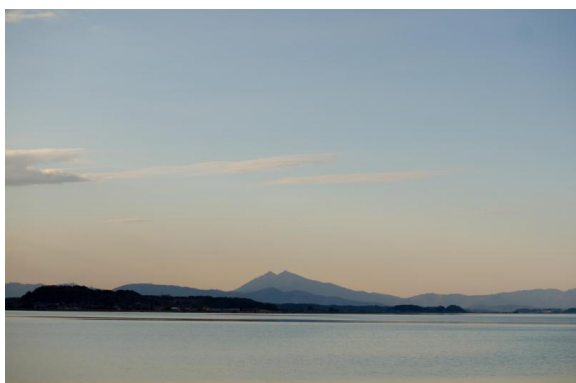
以前は、霞ヶ浦の水はとてもきれいでした。昭和40年代までは湖水浴場もあり、美しい風景をめあてに観光・レジャーにおとずれる人もたくさんいました。しかし、アオコの発生がひんぱんに起こるようになりました。特に昭和53年から55年（1978～1980年）にかけては、たびたびアオコが大発生しました。このときは、つもったアオコがくさり、とてもくさいにおいがして困りました。この後、茨城県では、霞ヶ浦をきれいにする取り組みをすすめるため、県の条例や計画をつくりました。この計画は、5年ごとに見なおしています。現在では、第6期の計画にしたがって霞ヶ浦をきれいにすることにしています。



1978年 アオコの発生

② 観光・レジャーの場としての霞ヶ浦

近くには筑波山があり、霞ヶ浦のまわりの風景は、とても美しいものです。ここは観光の場であり、心を和ませるいい場所でもあります。潮来のあやめまつりや、ヨットなどの水上レジャー、魚つりや湖岸（こがん）サイクリングなど、茨城県において観光・レジャーの場となっており、県内外からたくさんの方がおとずれています。



霞ヶ浦から見た筑波山



ボート体験（環境科学センター）



潮来市 あやめまつり



行方市 天王崎

③ 豊かな生物のすむ場所としての霞ヶ浦



稲敷市 妙岐の鼻



土浦市 沖宿町

霞ヶ浦は、その豊かな生態系（川や湖などの場所とそこにすむ生き物をあ  
わせたもの）をもっています。湖の水は、私たちが飲み水、農業用水、工業  
用水として利用するほかに、霞ヶ浦にすむ生き物にとっても大切な水です。  
多くの人々が、人間はもちろんのこと霞ヶ浦にすむ生き物たちも、霞ヶ浦の  
自然や水に大きくたよっていることに気づきました。

霞ヶ浦は人間だけのものではなく、さまざまな多くの生物がすんでいる貴重な場所です。霞ヶ浦を人間とともに多くの生物も生きていくことができるようにしていくことが重要です。

\* その他学習資料 霞ヶ浦環境科学センター・霞ヶ浦河川事務所・観光いばらき